

春の雨が大地を潤し、膨らみ始めた桜のつぼみに息吹を注ぐ今日この佳き日に、聖霊学園高等学校の入学式を挙行できますことを、心から喜び、厚く感謝申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この春、希望に満ちた121名の皆さんを本校にお迎えできることを、大変嬉しく思います。今日からここが皆さんの学び舎です。在校生、教職一同、心から歓迎いたします。

保護者の皆様におかれましては、大切なお嬢様のご入学、誠におめでとうございます。高校3年間というかけがえのない学びの場に、本校を選んでいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

また、カトリック新潟教区 成井大介司教様をはじめ、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、そして日頃より本校を支えてくださっている地域の皆様に、教職員一同、心より御礼申し上げます。

今日、新入生の皆さんは新しい一步を踏み出しました。それは単なる高校生活の始まりではなく、これから「どのように生きるのか」を考え始める、大切な節目でもあります。

この季節、世界では「イースター（復活祭）」を迎えています。イースターとは、困難や悲しみの中にあっても、新しいいのちが芽生え、希望がよみがえることを祝う時です。長い冬を越え、大地に新しい芽が顔を出すように、どのような経験も決して無駄ではなく、次の成長へとつながっていく。そのことを、私たちに、確かに教えてくれる季節です。

今、世界には、争いや分断、貧困、環境問題など、多くの課題があります。しかしその現実の中で、私たちは気づかされます。この社会は、誰か特別な人によってつくられているのではなく、私たち一人ひとりの「考え方」や「選び方」によって形づくられているのだということに。だからこそ、今、私たちは「どのように生きるのか」と問われているのです。

本校で大切にしている学びも、まさにそこにあります。正解を覚えることだけではなく、自ら問い、考え、対話しながら、自分にとって本当に大切なものを見つけていくこと。そして、真実・正しさ・美しさを、自分の意志で選び取っていくことです。そのとき、よりどころとなるのが、皆さんの中にある「光」です。迷ったとき、その光は静かに問いかけます。

「それは、本当に大切なことだろうか」と。
その問いに向き合いながら歩むこと――
それが、「光の子として歩む」ということです。

118年にわたる本校の歴史もまた、その歩みの積み重ねです。
1908年、明治41年。まだ女性の生き方に多くの制約があった時代に、
ドイツから来た5人のシスターたちは、「**本当の幸せを生きる女性**」を育てたいという
願いを胸に、この地で教育を始めました。戦争や社会の混乱という困難の中でも、
その歩みは決して途切れることはありませんでした。
それを支えてきたのは、「**光の子として歩む**」ことを願い、選び続けてきた人々の、
日々の歩みでした。

このあと、行われる**光の奉獻**の中で、新入生の皆さんはこう誓います。
「**真実のこと、正しいこと、美しいことを愛するように努めます**」と。
それは、自分の心で感じ、考え、選び取っていくという決意です。
本校の教育目標「**光の子として歩みなさい。～すべてのいのちとともに輝く～**」には、
自分を大切にし、人とともに生き、社会に希望をもたらす存在になってほしい、とい
う願いが込められています。
特別な、誰かになる必要はありません。目の前の人に誠実に向き合うこと。
違いを受け入れ、ともに生きようとする事。
その一つひとつが、この世界に光をもたらしていきます。

新入生の皆さん、これからの三年間、皆さんは「どう生きるか」を問い続けていく
こととなります。すぐに答えが見つからないこともあるでしょう。
けれど、その問い続ける時間こそが、皆さんを確かに成長させてくれます。
本校の建学の精神である「**真の幸せの探究**」とは、用意された答えを探すことではな
く、自分の人生の中で何を大切に生きていくのかを見つけていく歩みそのものです。

復活祭とともに迎えたこの新しい始まりの中で、皆さんの中にある可能性は、今、
静かに芽吹こうとしています。
どうか、希望を持って、一步を踏み出してください。やがてこの学び舎を巣立つとき、
自分の足で人生を歩み、誰かのために力を尽くすことのできる人へと成長している
――その姿を、教職員一同、心から楽しみにしています。
支えてくださるすべての方々への感謝を胸に、ここ聖霊学園高等学校での学びの日々
が、皆さん一人ひとりの未来を照らす光となりますように、祈りを込めて、
私の式辞といたします。